

研究ニーズ一覧表

No.	研究して欲しいテーマ	現状と課題	研究から期待される効果等	要望・提案元	掲載日	掲載期限	備考
1	学生に地域との交流や愛着を持ってもらえるような空き家・空き室の利活用方法について	全国的な動向として少子高齢化や家族のあり方の多様化、既存住宅の老朽化、産業構造の変化等により居住その他の使用がなされていない空き家が増加しており、防犯上の不安や衛生環境の悪化、地域コミュニティの機能低下等が課題となっている。現在、その対策の一つとして高齢者宅の空き室に若者(学生)が低家賃で間借りし、高齢者と同居しながら交流を図る「京田辺ソリデール」事業を実施しているが、若者(学生)からの希望が少なく、期待している効果が得られていない。	学生が空き家・空き室を活用し、地域との交流を行うことで空き家化の防止や地域振興の効果が繋げたい。	建設部 開発指導課	令和4年1月19日	令和7年3月31日	
2	在住外国人が真に必要な生活ガイドブック掲載内容について	本市では、在住外国人支援策の一つとして、多言語による生活ガイドブック(英語、中国語、韓国語)を発行している。これまで、生活ガイドブックの内容は国・地方公共団体が発行している内容を参考にして掲載してきたが、掲載内容が真に本市に在住するその国の人々が必要とする内容なのかが不明である。また、本市は在住外国人との接点が殆ど無く、外国人の実態が分からず、効果的な施策が図れていない。	研究者がファシリテーターとなり、生活ガイドブックに掲載すべき必要な情報を該当する外国人とともに協議しながら決定することで、利用価値の高い生活ガイドブックを作成する。また、作成後においても協力した外国人とのネットワークを活かし、多文化共生施策や有事の際に、サポートやアドバイスを得ることが出来る。	市民部 市民参画課	令和4年1月19日	令和7年3月31日	
3	コロナ禍における府内青少年少女合唱団の動向と今後の展望について	京都府内の青少年少女合唱団は11団体あり、独立した運営母体による合唱団と市町村の教育委員会が運営している合唱団があるが、独立系の青少年少女合唱団が指導者の高齢化や団員減少のため、消滅した。存続している合唱団もコロナ禍の影響により、思うような活動が出来なくなっている。今後も団員を確保し、継続的に活動できるような手立てが必要である。	研究成果や他市町村の青少年少女合唱団の工夫されている事等を取り入れることで、当団体の団員確保や活性化に繋げたい。	市民団体	令和4年1月19日	令和7年3月31日	
4	異世代間交流スペースの活性化について	本スペースは住宅街にある民家を異世代交流の拠点として、不特定多数の人々が集い刺激を受けあえる楽しさを抱いて貰うことを目的に、貸し室を利用した講習会や教室の開催、地元野菜を用いたランチ等の食堂営業や物品の販売等を行っている。しかし、コロナ禍の影響もあり利用者の減少や資金・スタッフ不足等、安定的な運営が出来ていない。	研究成果を元に異世代間交流スペースの作り方、運営方法の改善を図りたい。1団体単独での運営が難しく、様々な方面と連携、共同で活動する必要がある。どういった人・団体と繋がれるのかを知りたい。	市民団体	令和4年1月19日	令和7年3月31日	
5	「情報が必要な人に届く」ツールとシステムについて	本団体は「アレルギーのある子もない子も安心してらせるように」をテーマに活動をしている。その活動の一環でアレルギーのある親子向けに学習会を開催しているが、学習会が必要な親子に情報が行き渡らないのが現状である。現在はHP、SNSで情報発信を行うとともに、チラシを幼稚園や保育所等に配布している。	ターゲットに対し効果的な広報手段を教えて欲しい。アレルギー、発達障害等、サポートを必要とする親子にターゲットを絞った情報発信が出来れば、それを用いた効果的な広報が可能となる。情報伝達の仕組みが見える化出来れば、それを用いた効果的な広報が出来る。また、貧困や引きこもり、サポートを必要とする市民への応用の可能性も広がるものと考えられる。	市民団体	令和4年1月19日	令和7年3月31日	
6	子ども、大学生、ボランティア-世代間交流が充実した子ども食堂の運営について	本団体は子ども食堂を運営しているが、それだけでなく、大学生も参画し、子どもたちとの交流も兼ねた学習支援を行っている。関係者として、子ども、大学生、若年ボランティア、高齢ボランティアの4世代があり、世代間の交流が図れることが子ども食堂の大きな魅力の一つであるが、世代間ギャップがあり、活動を行っている中での一体感が乏しいものとなっている。	研究成果を元に世代間交流を促進し、子どもから高齢者まで楽しく語らいながら食事を楽しむ子ども食堂の本来の価値を高め、本市の他の地域にも設置を増やしていきたい。	市民団体	令和4年1月19日	令和7年3月31日	

研究ニーズ一覧表

No.	研究して欲しいテーマ	現状と課題	研究から期待される効果等	要望・提案元	掲載日	掲載期限	備考
7	市民の文化活動による「絆」作りと地域活性化	コロナ禍において、文化祭や文化イベントをはじめ、多くの行事や集まりが中止を余儀なくされる中、地域との繋がり希薄化がますます問題となっており、特に高齢者においてその傾向が顕著である。 したがって、市民が文化活動に参加することにより、地域社会と「絆」を作り、健康で文化的な生活を営むと同時に、地域が活性化する仕組み作りが急務である。	本団体は市民の文化活動の活性化によるまちづくりを活動目標の一つにしており、文化活動による「絆」作りとそれに伴う地域活性化は是非実現させたい。 そのための活動の具体的な道しるべやヒントを得られたらと期待している。	市民団体	令和4年2月21日	令和7年3月31日	
8	アウトドア施設における今後の市場ニーズ等について	京田辺市野外活動センターは、青少年の健全育成と市民の余暇の活用を図るため、昭和56年4月に竣工、平成9年6月には、研修棟(クラフト室・学習室)、バンガローを拡張竣工し、市直営で運営している施設である。 コロナ禍以降、日本各地のアウトドア施設では、キャンプ需要等が急増し、活況である一方、本施設においては、市直営により運営ノウハウに欠ける点も多く、市場ニーズに応じたサービス提供ができていないこと、市の条例等により19歳以下の青少年がいないと施設利用ができないことなどから、利用人数は年々減少している状況である。	アウトドア施設における今後の市場ニーズの分析に基づき、市場ニーズに応じた施設運営やサービス提供を検討し、魅力ある施設にしたい。	市民部 文化・スポーツ振興課	令和4年12月21日	令和8年3月31日	
9	学生ボランティアの有効性(地域のニーズと結果)についてのリサーチ	学生ボランティアはどこまで求められているのか。分野や活動内容、頻度などによってその有用性に違いがあると考えられる。	学生の責任感の有無、社会的常識の認識度、自由度などによっても有効性が変化すると考えられる。学生ならではの特徴と活動内容のマッチングについて研究されたい。	市民団体	令和5年1月23日	令和8年3月31日	
10	小中学生の遊び場リサーチについて、放課後の居場所昔と今	かつてこどもの居場所はたくさんあった、誰の土地かわからない空き地、歩道、車通りの少ない道路、畑のあぜ道、河原、公園など。 しかし、現在は、そのほとんどが危険だから遊んではいけない。公園も規制が厳しく、自由な遊びの開発ができる場所、好き勝手できる場所がほとんどない。 しかし、京田辺市では子どもがなお増加傾向にあり、「子どもの居場所」をテーマとした活動をしていきたくという主婦層が急増している。	そういった課題について、本当に遊び場は減っているのか。放課後や休日の居場所を求めている子どもたちはどれぐらいの割合存在するのか、定量的な調査結果が欲しい。	市民団体	令和5年1月23日	令和8年3月31日	
11	活動拠点調査	市民活動団体が活動していく際に利用できる空き家や空き部屋がなかなか見つからない。	市民活動などの拠点、特に子どもたちの第3の居場所づくりなどに利用できる空き家、空き部屋などが市内にどれだけあるかを把握したい。	市民団体	令和5年1月23日	令和8年3月31日	
12	自治会の加入率の低下について、その原因は何か	各地で自治会の加入率低下が問題となっている。その対策として、安易に強制加入やそれに類似した提案がされがちである。	進んで加入するにはどうしたらよいか。加入しない原因は何か。加入のメリットを感じないというが、そもそもそんなマインドになってしまったのはなぜか。等について研究を行い、自治会活動活性化の一助としたい。	市民団体	令和5年1月23日	令和8年3月31日	

研究ニーズ一覧表

No.	研究して欲しいテーマ	現状と課題	研究から期待される効果等	要望・提案元	掲載日	掲載期限	備考
13	不登校のニーズ把握	不登校の児童・生徒は増加を続けている。すでに不登校はほとんどの学校にも見られる珍しくない問題となっている。	不登校の子どもたちが必要としているものは何か。場所、人、教育、経験。	市民団体	令和5年1月23日	令和8年3月31日	
14	京田辺市版PT調査	モータリゼーションの進展によって人の移動の大半が自家用車によるものとなり、とりわけ近年の新型コロナウイルス感染症の拡大は公共交通の利用者を激減させ、公共交通は今、大きな危機に直面している。こうした中で今ある交通ネットワークを維持し、公共交通の活性化を図る施策を展開するためには市民が「いつ」「どこから」「どこまで」「どのような目的で」「どのような交通手段を利用して」日々移動しているかを把握し、確かなニーズを把握することが必要となっている。令和3年度に近畿圏のPT調査が実施されましたが、コロナに対する社会の考え方も変わりつつあり、現状における移動ニーズを把握することが重要と考えている。	市民の動きを把握することで移動に対するニーズを把握し、その移動を公共交通の利用に結びつける施策を形成するのに役立つ。	建設部 計画交通課	令和5年1月23日	令和8年3月31日	
15	種からササユリを育てる栽培研究	本会は京田辺市環境基本計画の推進団体として設立した会であり、市の自然環境の保全を行っている。市内で見られるササユリの自生地が近年減ってきており、このままでは市内において、ササユリを見ることができなくなってしまうことが危惧される。そのため、ササユリを種や苗から自宅で育て、里山に植え、自生地を復活させる活動をしていきたい。	過去から会員において、自宅のプランターで苗を育てる試みをしているが、開花に成功することが少なく、効率が悪い。栽培条件(土質、日当たり、通風、肥料等)を変えた実験を行い、効率のよい栽培方法を探してほしい。実験計画、結果の解析、観察記録方法等について指導いただき、会員や市民で実践を行い、ササユリを増やしていきたい。	市民団体	令和5年2月14日	令和8年3月31日	
16	新体操競技の振興・発展に向けた総合的なICT化	3年前のクラブ立ち上げ時は指導者を含め8名でのスタートでしたが、令和5年2月現在では66名の子どもたちが集まり日々練習に励んでいる。大会などでも少しずつよい成績が残せるようになり、子どもたちの熱意に応えるべく次なる展開について真剣に考える段階に来ている。京田辺市は新体操が盛んな地域ではなかったため、スポーツ施設の充実化も希望するが、施設面のみならず新体操を含めたスポーツ振興・発展に繋がる先進的な取り組みをお願いしたい。	多くのデータを集め、それらを分析することで、競技の向上に繋がる、いわゆるデータ活用がスポーツの分野でも進められている。例えば、映像技術等を駆使しながら多視点からのデータ分析を実現できれば、日常的な指導をより一層充実化させることができる。指導の傍ら練習風景の動画を保護者に送っているがこのような部分も含めた全体的なICT技術関連の最適化・充実化を進めることが出来れば、京田辺市における新体操競技の新興と発展に繋がれると考える。	市民団体	令和5年2月28日	令和8年3月31日	

※ 掲載されているテーマで詳細な話を聞きたいということであれば、京田辺市大学連携ディスカバリーベース〔(市民参画課内)TEL0774-64-1314、Mail:discoverybase@city.kyotanabe.lg.jp〕までお問い合わせください。